

2023 年度コンプライアンス講習会 理解度確認テスト結果

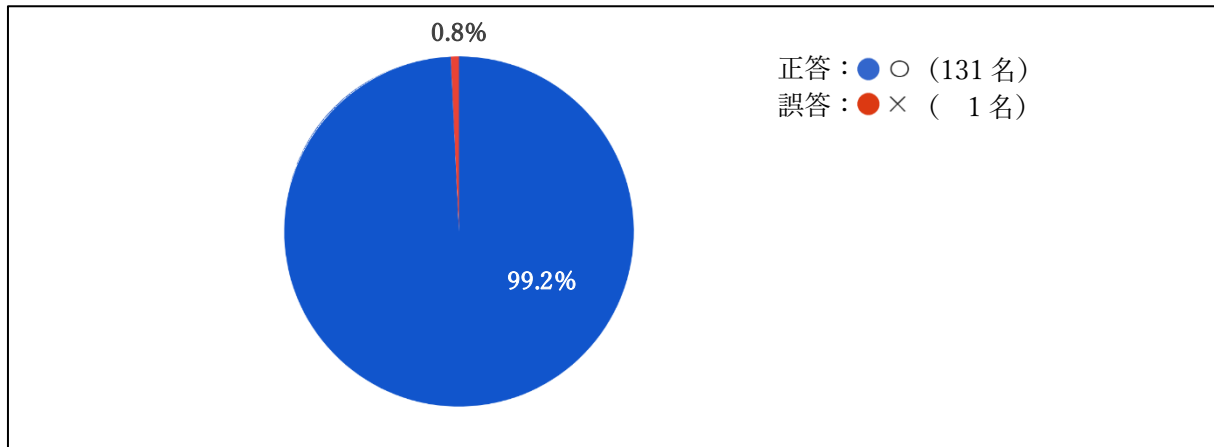
講習会実施日：2023 年 9 月 1 日(金)

【対象者 132 名】 受講者数：132 名 / 回答者数：132 名

【正しいものには○を、間違っているものには×を付けよ】

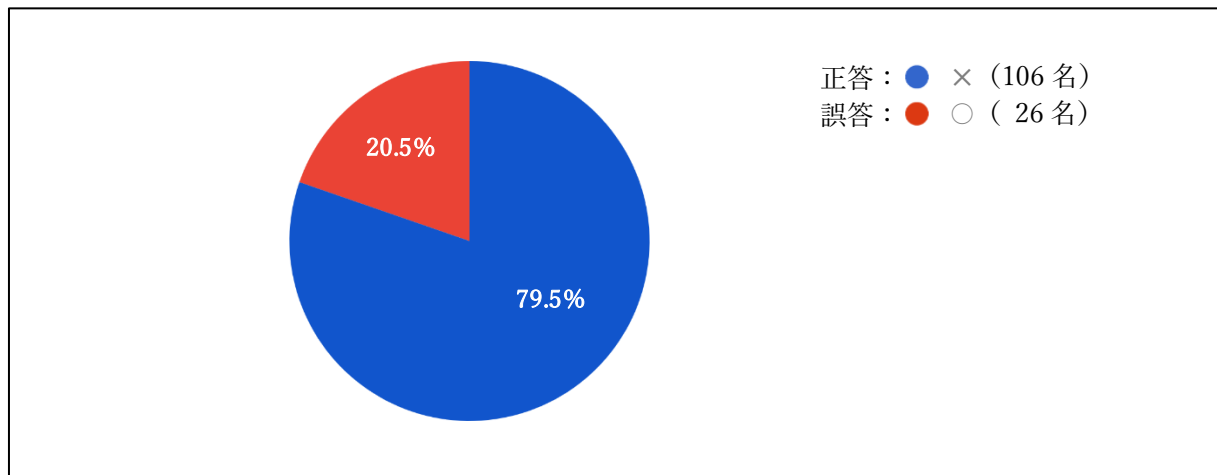
1.日本の研究不正の原因は大学の研究不正調査体制に問題があるとネイチャー誌に掲載・指摘されたことがある。

→正解：○



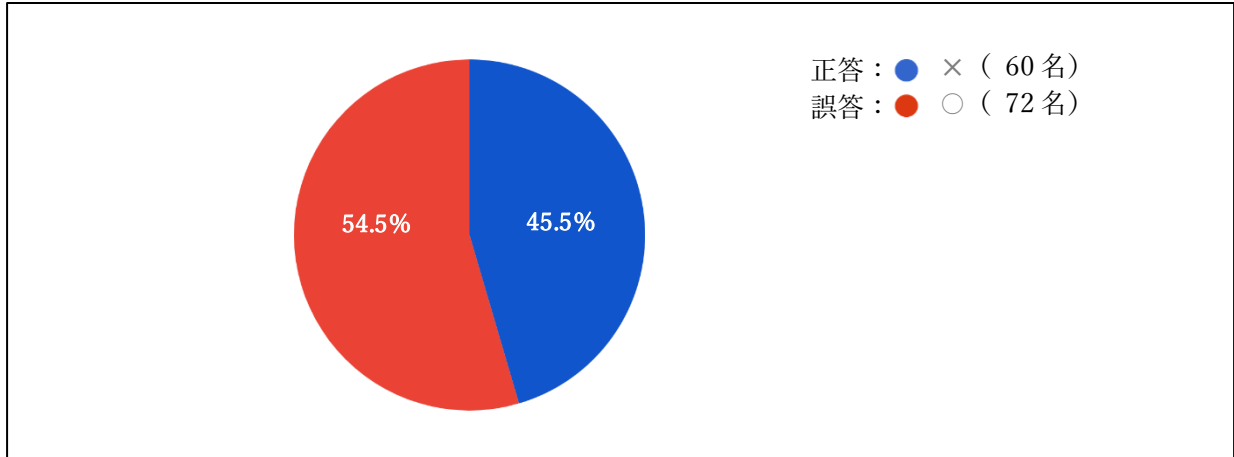
2.特定不正行為には捏造、改ざん、二重投稿の3つがある。

→正解：×



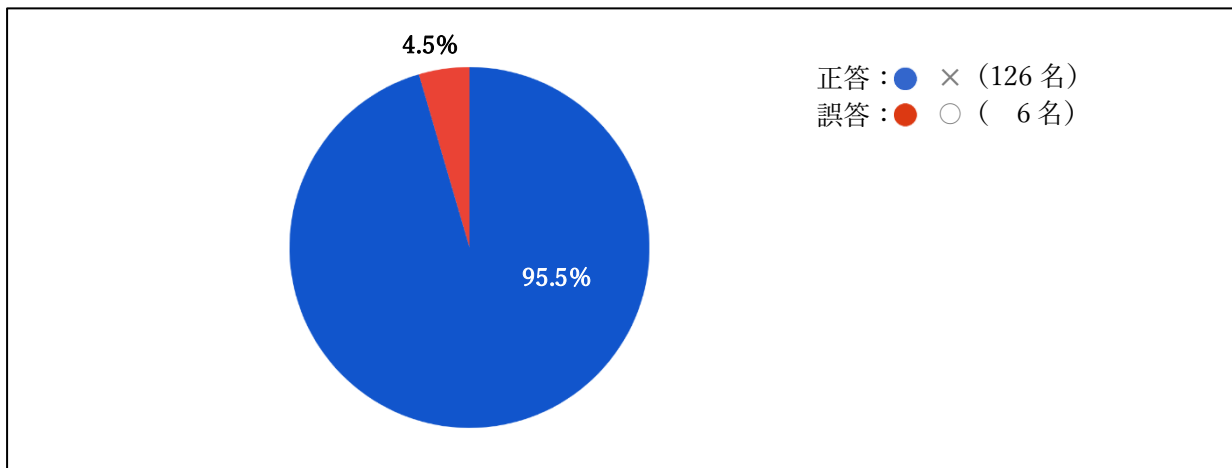
3.人を対象とする研究のデザインと実施方法は、その正当性よりも実験プロセスを具体的に研究実施計画書に記述することが重要である。

→正解：×



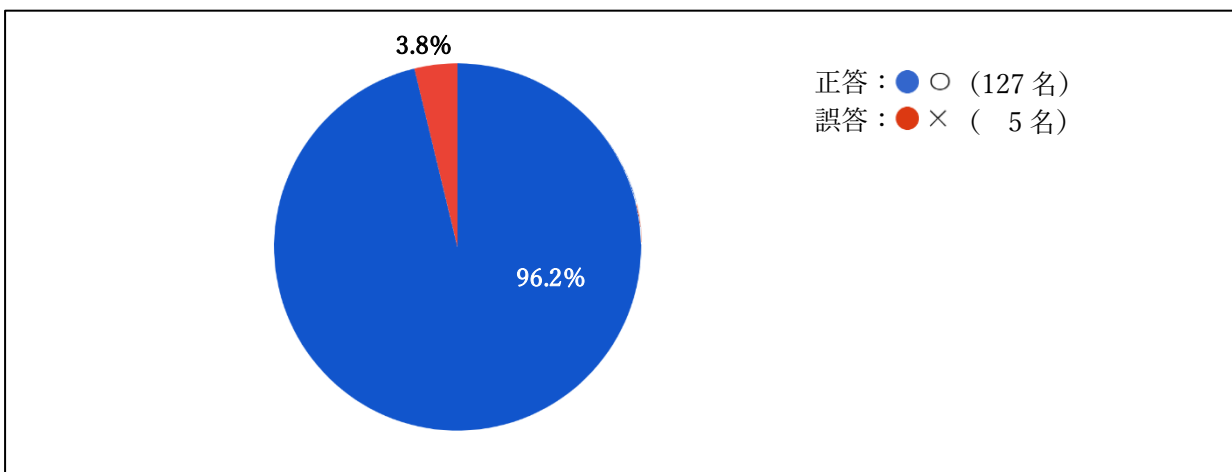
4.研究資料とは検体試料や標本、数値データ、画像を意味しており、研究ノートやメモ類は含まない。

→正解：×



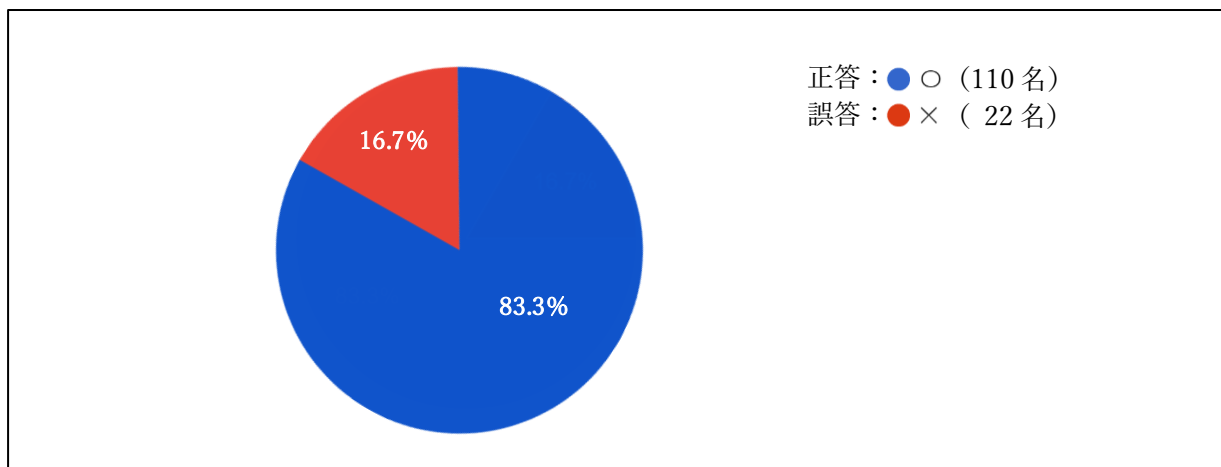
5.ある研究において教授の指導のもとで大学院生がデータ収集・分析を行った。また論文作成においては批判的校閲に関わった。しかしこの学生は卒業したため論文著者に記載しなかった。これはゴーストオーサーシップである。

→正解：○



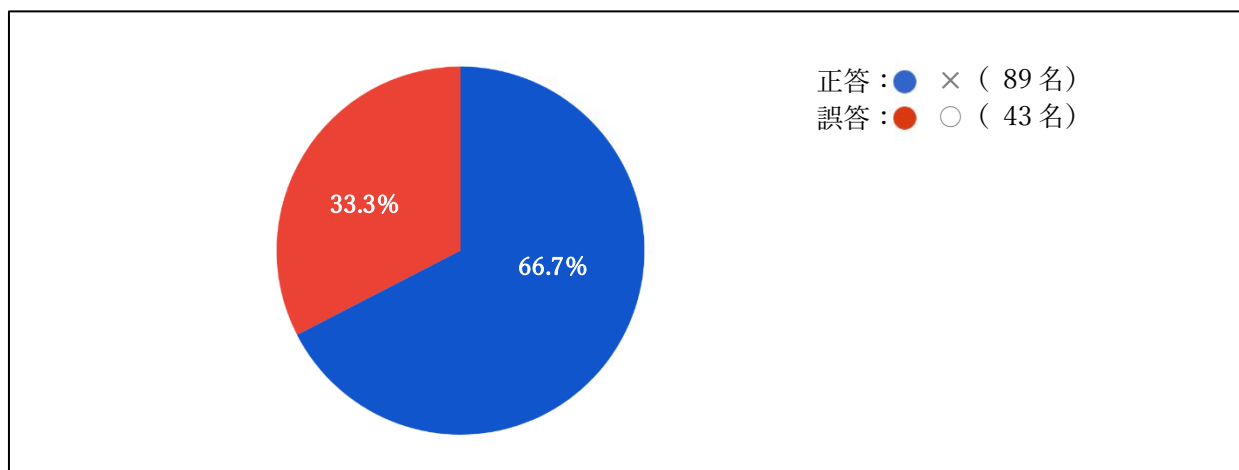
6.倫理審査委員会の設置において、その委員には一般の人が含まれている必要がある

→正解：○



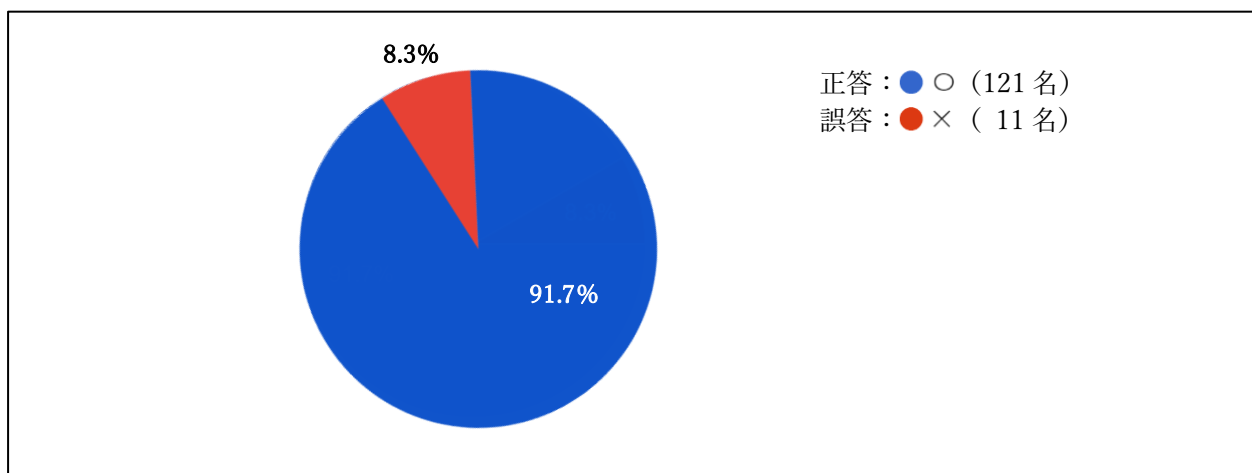
7.日本では数例の希少疾患の研究を行うため倫理申請する。患者の既存試料を用い匿名加工情報処理を行えばインフォームドコンセントは不要である。

→正解：×



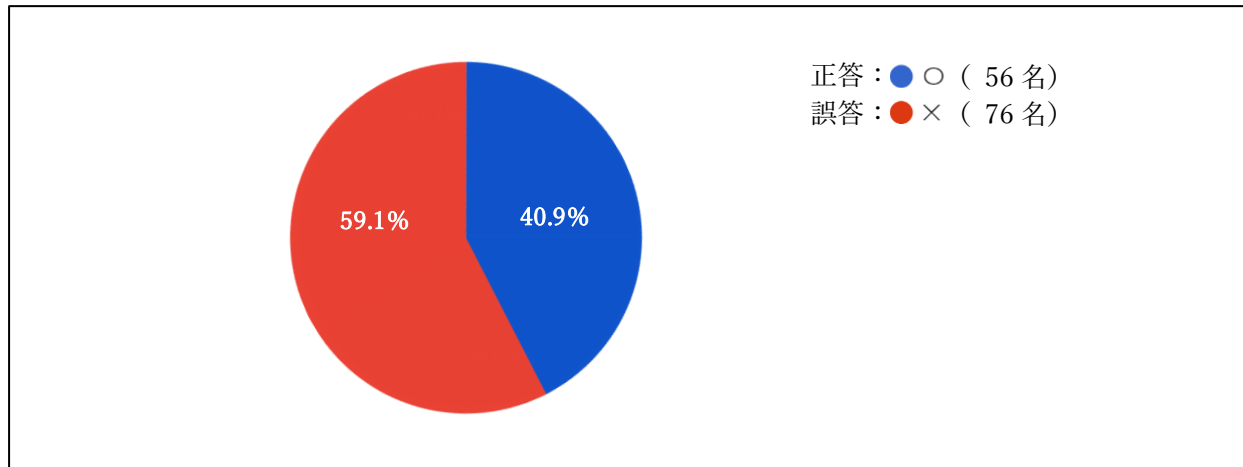
8.ゲノムデータに医学的なアノテーション（解釈）を付加し、医学的意味合いを持ったゲノム情報は要配慮個人情報として位置づけられる

→正解：○



9. 既存試料を用いた観察研究においても原則としてインフォームドコンセントを受けることが必要である。しかし、インフォームドコンセントを受けることができない相応の理由がある場合（対象者が中学生であった）はこの限りではない。

→正解：○



10. 既存試料の教育への使用は研究目的ではないため倫理審査の対象外であり、どのような試料でも自由に使用してよい。

→正解：×

